

フォルカー・トゥルク国連人権高等弁務官の寄稿：ベネズエラでのアメリカの軍事作戦は他国の安全を損なう

2026/01/05

国連人権高等弁務官事務所

「ベネズエラにおけるアメリカの軍事作戦は、2度の世界大戦とホロコーストという悲劇を経て合意された国際法の基本原則、すなわち、国家は領土権の主張や政治的な要求を達成するために武力を行使してはならないという原則をむしろ揺るがす。私はこれらの出来事とそれに対する反応に動揺している。なぜなら、マドゥロ政権の人権侵害への対応として、アメリカの軍事介入を位置づけようとするストーリーが出現しはじめているからだ。こうした介入は、強国はなんでもできるというシグナルを送るものであり、第三次世界大戦を防ぐ唯一の仕組みである国際連合を弱体化させる。いかなる嘘もごまかしもこれら実際に起きた事実を変えることはできない。ベネズエラの人びとの人権は交渉の駒でも得点になるものでもない。人権はベネズエラの未来の中心となる必要がある。そしてこの国の未来は、ベネズエラ国民自身によって決定されるべきである。人権が都合のよい時だけ持ち出され、都合の悪い時は非難のための道具にされることは容認できない。この問題は、国際法に反する一方的な介入を行うか、長年の人権侵害を見過ごすか、という二者択一ではない。この国際法違反が自らの安全保障に及ぼす影響について警戒する人びとが、地域そして世界にいるのではないかと危惧する。私たちに必要なことは、世界中で人権法を厳格に守ることである」。

＊本寄稿は、2026年1月5日の [The Guardian](#) に最初に掲載された。

【記事全文】 [High Commissioner's op-ed: US military action in Venezuela makes every other country less safe](#)